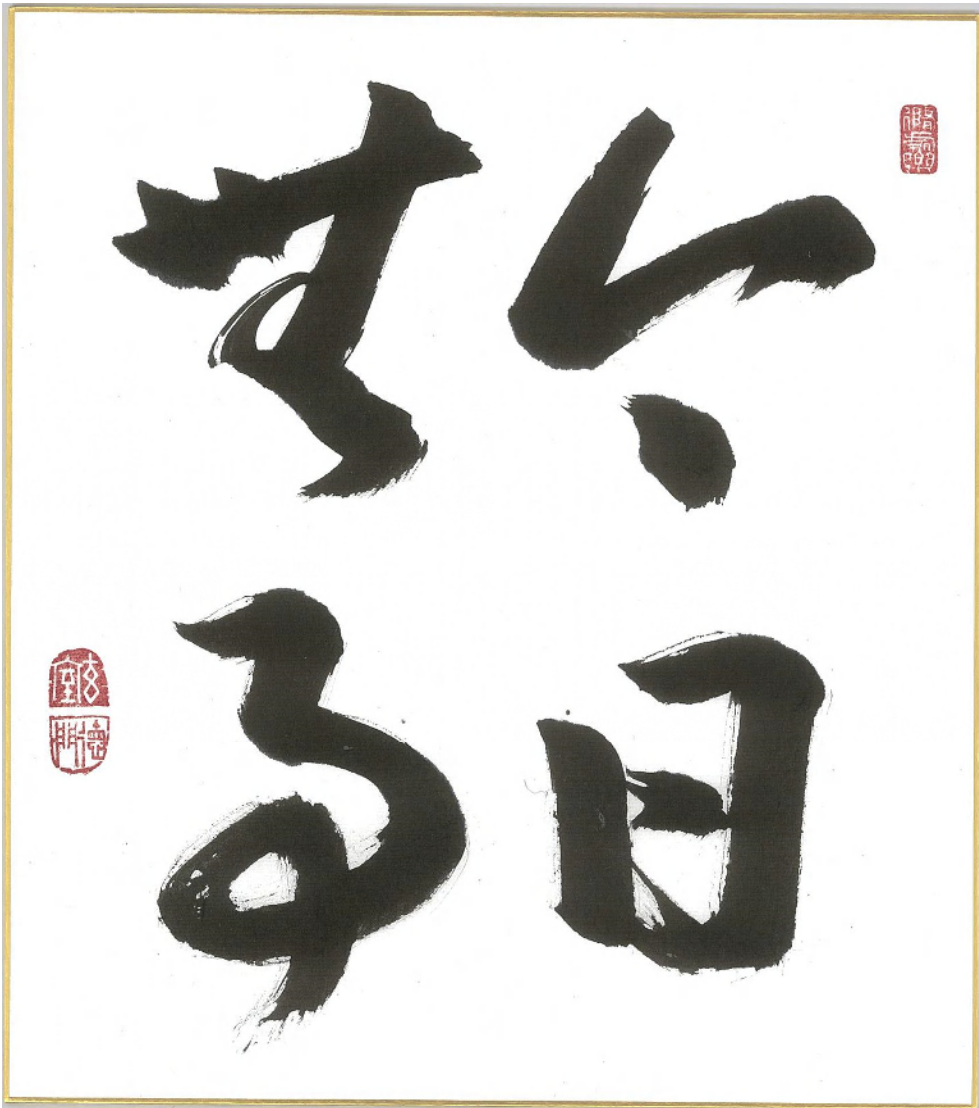


圓福寺報

圓福寺報 第七十七号
 令和二年七月十五日発行
 発行者 臨濟宗妙心寺派 圓福寺
 千葉市稲毛区六川町三七五 TEL (二五二) 九二八一
<http://www.chiba-enpukujji.com>
 E-mail: oshou@chiba-enpukujji.com



「今日無事」京都圓福寺 龍潜窟政道徳門老師

目次

ほとけさんの心シリーズ(その五) 「跋陀婆羅菩薩」 <small>はったばり</small>	2
「僧堂で何してる？」その八 修行道場の生活	6
テレ参拝 「お施餓鬼のころ」	8
別世帯の家族に、 寺報を送りませんか？	13
墓地の空きがあります。	13
新型コロナウイルスにかかる 今後の行事について	14
令和一年度花園会会計報告	14
六川花園幼稚園 園だよりから 「ネット情報にご用心」	15
お寺と和尚の日録抄	16
四国あるき遍路の旅を終えて 葛城 塚本 勝身さん	17
第八回四国あるき遍路の旅 (記録写真集の抜粋です。 この記事は、裏表紙からお読み ただくように編集してあります。)	19

ほとけさんの心シリーズ（その五）

「跋陀婆羅菩薩」

修行道場の風呂事情

臨済宗の修行道場では、一般的に四と九の付く日は、お風呂に入る日と決まっています。この日は、四九日（しくにち）といって、朝には剃髪といって頭を剃り、身を清める日でもあります。

「清める」という言葉通りで、入浴できるからといって、足を伸ばして湯船にゆったりとつかれるわけではありません。風呂上りにビール・・・なんてとんでもありません。お風呂から上がったなら、夜の坐禅が待っています。それでも、私が修行した平林寺は、作務が厳しいところで、毎日毎日汗まみれ、土埃まみれになって作務をしておりましたから、お風呂は毎日入ることが許されてい

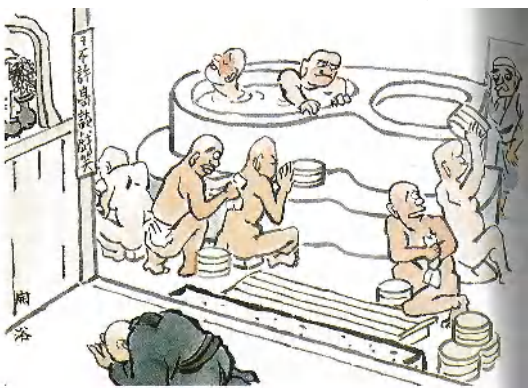
ました。これも、許されていたという言葉からすれば、そんなに汚れていない日は入らなくていいのかというと、修行ですから必ず入らなければいけないのです。

禅堂で寝起きをする「堂内」の雲水は、入浴の時間になると、雲水衣を脱ぎ、雑衣という着物姿で腰上げをとり、着替えとタオルをふところに入れて浴室に向かいます。先輩から、なぜか白いものを見せてはいけないと教えられたものですから、パンツやシャツ、タオルはふところ忍ばせなければならなかったのです。タオルをぶらぶらしながらなんてありえません。風呂上りだって、頭にタオルを載せて禅堂に戻るなんてご法度もいいところでした。「浴司」（よくず）という浴室に着いたら、脱衣場に入って、そ

れ一つとばかりに着ているものを脱いで入浴・・・、とはいきません。脱衣場の床の上に、半畳の「拝敷」というござが敷いてあり、その正面、なげしの上の棚に仏さんが祀ってあります。まずは、その仏さんに向かつて、拝敷の上で三拝をしなければなりません。この仏さんが今ご紹介する「跋陀婆羅菩薩」（ばつだばらぼさつ）で、言うまでもなく浴室に祀られる仏様です。

「跋陀婆羅菩薩」のお話は後述するとして、入浴シーンの続きをいたしましょう。

三拝が済んだら脱衣となりますが、脱いだ衣類もまた、白いものを見せてはいけないので下着類は脱いだ衣類の下に置きまします。その上に、袖畳みした着物を重ねて、



いよいよ浴室に入ります。

平林僧堂の湯船は現代的で、FRPでできた大人が三〜四人は入れられるような湯船でした。薪のポイラーでお湯を沸かしているものですから、蛇口をひねってお湯を張ります。ときどき、湯船のお湯が茶色がかっているときがあります。これはその日の風呂当番「浴頭」(よくじゅう)が薪を入れすぎてポイラーの中のお湯が沸騰するほど熱くなつてしまい、ポイラー一内の錆とかがお湯に混じってしまった証拠です。さらに沸騰してしまつと、お湯を張るために蛇口をひねつても蒸気しか出ないなんて言うこともあります。ここまでになると、ポイラーを痛めてしまうというので、先輩の雲水にこっぴどく怒られてしまうのです。



大きな湯船にたつぷりのお湯、掛け湯をしてどほ一んと入りたいところですが、道場では体をしっかりと洗ってから入ります。しかも、先輩より先に湯船に入つてはいけませんし、洗い場も年功序列

で決まっています、新入りは排水溝のそばと決まっています。また、浴室の壁には「禁高談戯笑」と墨書された板が掲げられていて、入浴中の私語は一切禁物で、入浴もまた修行生活の一部であることを明確にしています。

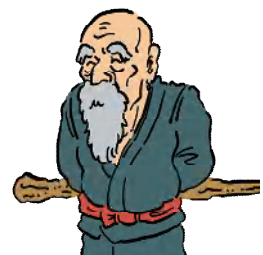
道場での風呂の思い出

そんな中、自由に入浴できることがありました。

以前ご紹介したように、入門してから三か月は、一切外出は許されません。先輩たちが半月に一回の外出をする日だけは、外出できない新入りたちへのお慈悲なのか、夕方早目にお風呂を沸かして新入りたちで入浴してもよいと許されるのです。ただし、一番風呂は老師に入っていました。ただ、一命と厳命されました。

夕方、その日の風呂当番が風呂が沸いたというので新入りの同期だけで気楽に風呂に入ろうということになりました。当然、老師はもう入浴を済ませているものだと疑いも持ちません。入浴にあたって、役付きの先輩の部屋に行つて、これか

ら入浴させていただきますと報告に行くと、まだ老師は入浴されていません。うのです。あわてて浴室に行つ



て、まだ老師が入浴されていないと知らせようと焚口側の戸をあけました。なんと老師と目が合っていました。湯船を見ると、同期の連中が神妙な顔をして入っているではありませんか。すると、老師が「まあいいから、あんたも一緒に入つたらいい。」というので、なんと新入りにとつては雲の上の存在の老師と一緒に入浴することになってしまいました。あれほど緊張して風呂に入った記憶もありませんでした。見るともなく目に入ってきた、老師の背中やふくらはぎの筋肉のたくましさ、永年の修行の凄みを感じさせられました。

修行時代の数ある失敗の中でも、今でも汗顔の出来事でした。お風呂での汗は、ゆったり湯船につかつて出てくる汗が気持ちいいに決まっています。



仏像の特徴

少し余談が過ぎてしまいました。前述の通り、入浴の際に三拝をする仏さんが「跋陀婆羅菩薩」（ばつだばらぼさつ）です。そのお姿の特徴は、手にお湯をかき混ぜる「權」（かい）をお持ちのことで、草津温泉の熱いお湯をかき混ぜる「湯もみ」の時に使われるのは六尺の板ですが、跋陀婆羅菩薩が持っているのは佐渡のたらい舟を漕ぐ權のような形をしています。また、素肌に袈裟をかけたようないでたちで、いかにも風呂当番のボスのようなイメージです。

この仏さんが禅寺の浴室に安置されるようになったのは、入浴の時に悟りを開かれたことにより、修行時代、参禅でいただく公案という課題は、坐禅中はもちろんのこと、作務の間や食事中など、四六時中手放してはいけないとよく言われました。それは入浴にあたっても言えることで、それを実践してお悟りを開かれた跋陀婆羅菩薩を安置することで、「浴司」もまた大切な修行の場であることを戒めているのだと思います。

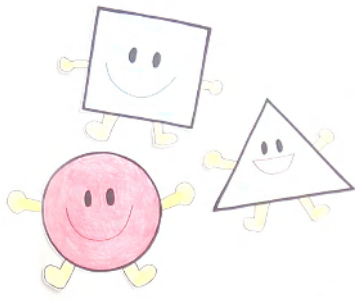
H₂OはH₂O

では、どのようなことに気づかれたのでしょうか。跋陀婆羅菩薩のお姿から想像するに、足袋などは履いておらず、履物は草履のようなものか、もしかしたら裸足だったかもしれません。昔ですから、おそらく石鹸なんてなかったでしょう、入浴にあたって泥や土ぼこりで汚れた足を洗ったことでしょうか。お湯をかけて足を

洗うと、きれいだったお湯が汚れを落として茶色になって流れていきます。それを私たちは汚いお湯といいます。しかし、水がお湯になったからといって、H₂OはH₂Oのままです。汚れたお湯も別なものに変わるわけではありません。泥水だって、泥を沈殿させればきれいな水になるし、濾過すればきれいな水として飲むこともできるでしょう。

最近の出来事で考えてみると、熊本や鹿児島、宮崎などで豪雨による災害が起き、洪水浸水などの被害がテレビに映し出されており、川の氾濫や堤防の決壊など、水の怖さをいやというほど感じさせられますが、水が引いたあと、流れ込んだ泥水をきれいないうジレンマを感じてしまいます。汚れた足をきれいにしたお湯が





お風呂に入って、顔を洗おうとお湯を手ですくえば手の中に収まり、丸い桶ですくえば桶の形に収まります。四角い

流れていくのを見て、跋陀婆羅菩薩は、私たち人間も、顔がきれいだとか醜いとか、スタイルがいい悪い、背が高い低い、頭がいい悪いとかではなく、本質的には何も変わらずに平等ではないかと気づいたのだと思います。

方円の器に随う

この水に関して、「水は方円の器に随う。」という言葉があります。一般的には、人は環境や交友関係によって善くも悪くも変わるというような意味でつかわれていますが、禅語としては水が融通無礙に形を変えることから、人の心の柔軟性であったり、移り変わることを言っています。

湯船に水を張れば四角い形に収まります。ところが私たちは、自分の考えが一番正しいとか、自分の経験が豊かだからと、それにこだわって人の意見を素直に聞くことができなかったりする。それで相手との関係がぎくしゃくしたりして不愉快に思いを抱えることになったりする。水やお湯が、どんな形の入れ物にも、その形に従って柔軟に収まるように、人はこだわらない、とらわれない心も大切だとも気づかれたのではないのでしょうか。

浴室余談

跋陀婆羅菩薩に三拝して入浴する作法は、昔から伝えられています。妙心寺にある浴室「明智風呂」の記録を見てみるといささか入浴の意味合いが異なっています。

妙心寺の南大門を入り、山門、仏殿、法堂と一直線に並ぶ伽藍の右手にある「明智風呂」は、天正十五年に建立され、国の重要文化財にも指定されている伽藍の一つ



です。妙心寺だけでなく、禅寺の七堂伽藍の一つにあたる浴室は、東福寺、大徳寺、相国寺、建仁寺にも現存しています。いずれも、現代のように湯船につかる形式ではなく、スチームサウナのような蒸し風呂だったようです。

妙心寺の浴室「明智風呂」は、明智光秀の叔父が妙心寺塔頭に住していた縁で、光秀の菩提を弔うために建立されたお風呂なのでその名前が付けられたそうです。光秀の供養をする日にはお風呂が沸かされ、「施浴」として供養する僧侶が入浴をして、読経、供養をしていたそうです。江戸時代以降の施浴は、大名、旗本、武士などが供養を依頼して、読経してくれ

る僧侶に明智風呂に入浴してもらっていただけと言います。

もちろん最近

では、明智風呂は重要文化財にもなっているのに、明智風呂の施浴はありませんが、阪神淡路大震災の折、神戸の祥福寺さんは被災者のために、「施浴」をされていたのが印象深かった記憶があります。



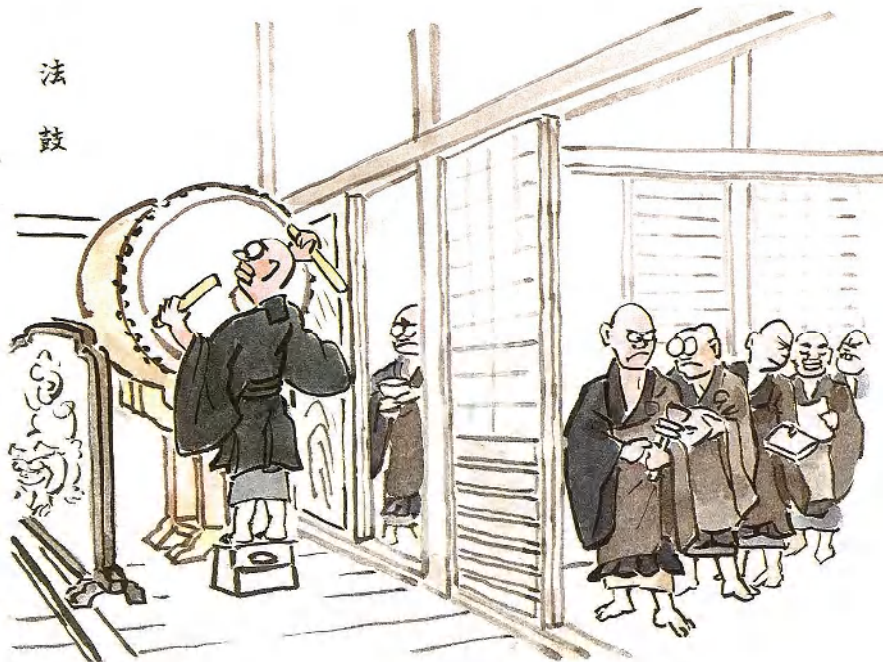
最近では、各地に日帰り入浴の温泉施設がたくさん建てられ、大人気のようなです。日頃の疲れを癒すことも精神衛生上大切なことです。が、跋陀婆羅菩薩のように入浴した際にお悟りを開かれた仏さんもおいたことも思い出しながら風呂に入っていたり、日頃の心の疲弊を払ってくれる一助になるかもしれません。

全国各地の災害の被災者のみなさんが、ゆつくりとお風呂に入れることを心より願って、お話を終わらせていただきます。

その八

僧堂で何してる？

修行道場の生活



法鼓

その日が二、七、五、十のいずれかであれば、午前八時ころにはきつと本堂から、とうとうと法鼓の音が響いてくるにちがいない。大衆はこの合図で袈裟を着け、講本を携えて本堂に参集する。街からは居士や大姉も聴聞にやってくる。

古来、法雷などと申すこの太鼓、『碧巖集』の話がおもしろい。ある日禾山和尚が大眾に「聞き学問は役に立たぬ。学問を使いこなせて一人前。本当の悟りの境地『真過』へゆくにはこれも卒業せねばならぬ」とおっしゃった。そこで、ある僧が問うた。「その真過をいまい少し詳しく」。すると、「まあ、太鼓を打つ稽古をしなさい。会得する何かがあるはずじゃ」。それから何を聞いても訊ねても「ともかく太鼓を打て」の一点張り。さていったい、真過とは何だろう。禅か、信心か、苦境にあつても生きぬいてゆく力か。あるいは幸運に恵まれても墮落せぬ鎖だろうか。この天下無双の太鼓の音、新到にはいつになったら解ることやら。

僧堂の鳴らし物

修行道場の日常は、鳴らし物と総称されるものの「音」で進められています。

起床は「振鈴」の闇を割く音で叩き起こされ、「半鐘」の音を合図に、「引金」に先導されて朝の勤行に行き、読経は「大磬」「小磬」「木魚」に合わせます。食事の合図も、柝と言われる「拍子木」の音で支度が出来たことを知り、「雲板」が鳴りはじめたら食堂（じきどう）に向かいます。

坐禅の時間になれば、静寂の中「柝」「引金」の音が始まりと終わりを告げます。

このように鳴らし物によって、日常が粛々と進められるのですが、特別な行事の時には、本堂の太鼓「法鼓」（ほつく）が打ち鳴らされます。

地を這い、腹の底に響いてくるその音によって、法要に臨む気持ちさがさらに厳肅さを増幅させてくれます。法鼓を打つ雲水は、法要の花形の一人としてあこがれでした。早く法鼓を打てるようにと、典座の薪をバチに見立てて練習したことを思い出します。

「法鼓」以外の太鼓としては、葬儀やお施餓鬼で使用する「懺法太鼓」（せんぼうだいこ）や少し小ぶりの「祈禱太鼓」などがあります。

接心ともなれば2~3時間という睡眠時間、夜座に出たものの、睡眠不足と疲れとでいつの間にか寝てしまい、本堂の縁側から転げ落ちたこともありました。また、真冬の夜座は、その寒さが骨身に沁みますが、坐禅をしていると足は温かくなります。ところが、夜座を終えて禅堂に戻るまでの間に、足は氷のように冷たくなり、布団にもぐりこんでも温かくはなりません。それでもいつのまにか眠ってしまうのですが、朝起こされてもまだ足が冷たいままだったこともあります。



夜坐

真夜中の坐禅

公案こうあんの工夫くふうを凝らして、人間すべてが生まれながらに持っている心性しんしょう（仏性）を見ぬき、心性にかなって直ちに仏となろうという禅の修行法、これに昼夜の区別などあるはずはない。

猛烈な求道心に燃える若者たちは、解定かいぢん消灯後もこっそりと禅堂のカシワ蒲団から抜け出して、それぞれ本堂の濡縁や石塔の間など、樹下石上に坐蒲団を敷いてひとり坐禅をしつづける。冬は氷雪寒風に苦しみ、夏はヤブ蚊の猛攻に悩む。時には男女の夜のデートの気配が若い雲水の心をゆさぶり、あるいは夜啼きそばのチャルメラが空腹の底にひびく。それでも、睡魔を払うため坐禅中股ちゅうももに錐きりを突きたてたという宋の慈明じみょうのような古人先哲の努力に見習って、いつさいの妄想を打ち払いながら、自己の真面目を把握しようとしては、知らぬまに徹宵して坐り明かすこともしばしばだ。

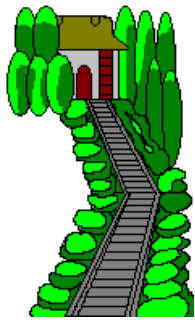
老師のお供で、岐阜正眼寺に行ったとき、老師自らが開山様が夜座をされていた関山嶺の坐禅石まで連れて行ってくれました。「ここで、開山様が夜座をされていたんだぞ。」と教えていただいたことを覚えています。

お施餓鬼のこころ

新型コロナウイルスの影響で、今年のお施餓鬼は初盆の方のみとさせて頂いていただきました。毎年恒例のお施餓鬼にお参りいただけなかったのも、「お施餓鬼のこころ」と題して、「お施餓鬼の意味などを改めてご紹介させて頂いていただきます。」

世の中、テレワークなんて言われていますが、つきり電話回線を使って仕事をしていたら、「テレ」は離れた場所という意味だそうなんです。この文章をお読みただいて、お参りした気持ちになれる、てら参拝ならぬ、お施餓鬼のテレ参拝になれば幸いです。

夏の来客



今では、バイク

私が生まれ育った町は、岩手県南部、国道四号線沿いの小さな町です。今では、前沢牛でその名が知られる田舎町です。お寺の参道の石段を下りて突き当たったところが、国道四号線です。今では、バイクが整備され、かつて町中を南北に貫いていた国道も閑散としたものです。その閑散に拍車をかけたのは東日本大震災で、被災した家屋が取り壊され、町は歯抜け状態、わずかに残っているかつての店はシャッターを下ろしたままなんていう状態です。

そんな国道沿いにあるお寺でしたから、私が子どもの頃は、毎年夏になると、夏休みになった大学生などが自転車で旅行している途中に、泊まらせてくれるところがある、バイクが来てお寺に泊まることになりました。

バイクがあるの、自転車旅行の人はそちらを通るでしょうし、また、スマホで安宿を探すのも簡単ですから、お寺なんか泊まりに来る人はほとんどいなくなりました。

飛び込みでお寺に泊まらせてくれなんていう人が結構いたのですから、私も大学の夏休みに帰省した時に駅前とかでサイクリングしている人なんかいると、今日泊まる場所はありますか、お寺に連れて行ったこともあります。

不意の来客にもかかわらず、母がご飯や布団を用意してくれたりして、もてなしてくれました。本当は、久々に帰ってきた息子に話も聞きたいだろうし、好きなものをたべさせてやりたいだろうし、突然のお客さんをもてなしてくれました。



水施餓鬼

さて、毎年のお施餓鬼を迎えるにあたって、お寺では七月の一日から十四日まで毎日夕方に

みずせがき

「水施餓鬼」というお参りをいたします。初盆を迎える仏様をお施餓鬼までにお寺にお呼びずるお参りです。お盆を迎える仏さんたちが帰ってきやすいようにと、施餓鬼棚は本堂正面の外に面したところに用意します。目印になるようにと、七如来の幡と両側には「寶樓閣真言」が

ほうろうかくしんごん

書かれた招き幡を飾り付けます。真ん中には、三界萬靈と檀信徒各家のお位牌、そして今年初盆を迎える仏様のお位牌を安置します。お経をお読



みして、ご回向の中で、初盆を迎える仏様の戒名と、檀信徒各家のご先祖様を読み上げ、施餓鬼までに本堂にお集まりいただくようにするのです。



初盆を迎えた仏様はじめ本堂に集まってくるたくさんのお仏様たちは、お葬式の中で戒名をいただいておりますから、慈悲深くなられているので、お寺に向かう時に、どこにも帰るあてのない人がいたら一緒にいこうと声をかけて、圓福寺まで一緒に来ます。この帰る場所がない仏さん、だれにもお参りしてもらえない仏さんのことを「餓鬼」と呼んでいます。「三界萬霊」のお位牌には、この餓鬼たちも含まれますから、とにかくたくさ

んの仏様が集まってくるように願うのです。なししろ、仏さんたちは普段は外出自粛で、唯一このお盆の時期だけ外出が許されていますから、喜んでお迎えいたしまししょう。

この時に、見ず知らずの人を連れて来るんじゃないの、とか言わないでください。慈悲のこころを身につけている仏さんたちの善行なのですから・・・。

施餓鬼のお参り

水施餓鬼でたくさんのお仏さんにお集まりいただきたい、いよいよ施餓鬼当日となります。

施餓鬼というのは、この餓鬼に食べ物を通してあげる、集まってきたたくさんのお精霊に食べ物をもてなすという行事です。施餓鬼棚のど真ん中に山盛り

に盛られたご飯を「餓鬼飯」がきめし



た。お遍路さん
は、一日三軒以上のお宅を托鉢をするというこことなっています。つまり、

この精神が、かつては四国遍路の巡礼者に対してもありました。お遍路さんが予約もなしに飛び込みでやってきても、宿坊や遍路宿は泊まらせています。

お接待のこころ

それはまるで、行きずりの旅行者に布団を貸してあげ、食事をもてなしてあげるようなものです。

と、いって、施しの象徴としてお供えし、お参りの時には、洗ったお米とお水をお焼香の代わりにお供えいたします。そして、お経の中で、このお供えしたお米やお水が数多くの餓鬼に行きわたりますようにと念じます。

三軒以上のお宅のご先祖の供養とその家の安泰を願う祈願者でもあったのだと思います。飛び込みでも寝床やご飯を用意して受け入れるのには、その祈願者をもてなすという意味があったのだと思います。ところが最近では事情が異なってきました。

四国あるき遍路の宿を予約した際に、とどころで何の団体ですかと聞かれたので、お寺の歩き遍路の団体ですというと、うちの旅館はお遍路さんはお断りしています、と冷たく断られたことがあります。よくよく聞いてみると、最近のお遍路さんは、遍路だといえれば何でも許されるような気になって、あまりにも傍若無人（ぼうじゃくぶじんの態度の人が多いということです。そのおかみさんはお大師さんを信奉している方で、お大師さんの名をかたり、お大師さんの上に胡坐をかいているようなお遍路さんを許せないのだそうです。団体さんで泊まってい

ただくのはありがたいのですが、お遍路さんだけはお断りですと、よほど嫌な思いをされたことがおありのようでした。私たちも気をつけなければと、気を引き締めたことがあります。

そんな傍若無人の遍路たちに比べて、餓鬼たちは不平を言うことはありません。どこのお寺に行つていいのかあてもありませんし、だれもお参りしてくれるわけでもありませんから、供養やお供え物に飢えています。わずかな食べ物でも、さえず、ありがたく食べてくれていて、年に違いありません。なにしろ、毎年毎年お供えされるのは、洗ったお米と浄水だけなのですから……。



お施餓鬼の作法

さて、お施餓鬼当日には、本堂の飾りつけが変わっています。外に面した施餓鬼棚だけでなく、本堂中央に台が設けられて、初盆を迎える仏様のお位牌や、檀信徒のご先祖様のお位牌は、この中央の台に移されまゝです。その前には、普段のお参り同様に香華燈火、お菓子や果物、お膳などが備えられます。

この中央の台にお供えするのに欠かせないものがあります。施餓鬼のお参りの作法に、その答えがあります。



中央の台に各家のお位牌や、初盆を迎えた仏さんのお位牌を安置するので、普通を考えればそこにお参りするものが自然ですが、お施餓鬼では「水向け」といって、

お参りの方々は施餓鬼棚に進んで、洗ったお米と浄水をお供えしてお参りしていただきます。

私たちにご縁のある仏さんたちが連れてきた餓鬼たちに、私たちがおもてなしをさせていたのです。そして、わずかなお供えが、和尚さんたちが詠むお経によって何倍もの量となり、飢えた餓鬼たちを満足させることでしょうか。年に一度のおもてなしに、餓鬼たちはありがとうと私たちに感謝を返してくれるはずですよ。

帰省した子に

毎年、母の墓参りに命日近くの五月中に帰省するのですが、今年は新型コロナウイルスの影響で、お墓参りにも行けずにおります。まして、岩手はいまだに感染者ゼロです。ネットのニュースで読んだのですが、新型コロナウイルスの影響でおじいさんのお葬式に参列できなかつた青年が、緊急事

態宣言も解除になったからそろそろ岩手に帰省したいと父親にメールをしたそうです。すると、メールの返信に、絶対帰って来るな、岩手の感染第一号になったら町の人になんと言われるか、仕事だってなくなるかもしれない、頼むから帰って来るなど言われたと、話題になっていました。

普段なら東京で仕事をしている息子が帰ってくる、大学に行っている娘が帰ってくるというのなら指折り数えて待っていてくれる。帰ってきたら、仕事はどうだ、学校はどうだ、ごはんはあるか、食事はちゃんしているか、野菜は食べているか、友だちはできたかなんかさだまさしの歌みたいになつてきました

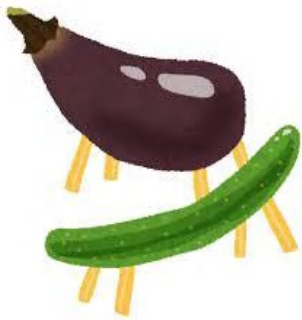
と心配してくる。また、嫁に行つた娘が始めて里帰りするとなると、これまたいろ



いと心配してくれる。どちら
も、帰るときにはお米はある
か、野菜はあるか、好きだった
食べ物を作って持たせてやった
りというのが親心だと思いま
す。

嫁に行った娘も、最初はしお
らしく遠慮をしたりしますが、
だんだん慣れてくると、帰ると
きにお米とどこそこのお菓子
と、あれとこれを用意しておい
てとかずうずうしくなったり、
娘が帰ったら冷蔵庫の中が空に
なったなんて言う笑い話も耳に
します。

それと同じで、久しぶりに
帰ってきた仏さんに、たくさん
のお土産を持たせてあげたい、
持ち帰るのが大変だろうからと



お盆にはお土
産を運んでく
れるナスや
キュウリで
作った牛馬も
皆さんご用意
されます。

「ありがとう」のお供え



話が少しそれ
ましたが、よう
やくお施餓鬼特
有のお供えのお
話になります。

水向けで食べ物をお供えいた
とができた餓鬼たちの感謝の
「ありがとう」は、水向けした
人たちへのものですが、この
「ありがとう」を初盆を迎えた
仏さんや各家のご先祖様にお供
えいたしますよと、施餓鬼のご
回向の中で読み上げています。
お参りした方々がいただいた
「ありがとう」を、中央の台に
集まっている亡くなった方々が
生前に行っていた善行なのです
とお供えをいたします。追善供
養という言葉があるように、後
から故人の生前の善行なのです
として、これをお土産にしてお
供えいただくのです。

仏さんたちが、迷うことなく穏
やかな時間を過ごすことができ
るようになってもらおうというの
がお施餓鬼のこころの一つで
す。

養わせていただく

亡くなった仏さんたちにより
よい時間を過ごしていただきた
いとの思いで、私たちが善行を
積み、たくさんの「ありがとう
う」をいただくと、いつの間
にか私たち自身が善行をするこ
とが身についていくではありません
か。仏さんのため、仏さん
にお供えするためといって行って
いたことが、いつしか私たちの
こころを養ってくれているの
で、これを「供・養」というわ
けです。そして、これが施餓鬼
のこころの二つ目と言えます。

新型コロナウイルスに感染し
て、コメディアン志村けんさ
んが亡くなられたのには驚かさ

れました。人のいのちがあつけないことを、思い知らされました。その志村けんさんに、たった一人の文通友だちがいらしたそうです。ひらがな詩人と言われる「くりすあきら」さんです。広島で生まれたくりすさんは、異常分娩によって、知的障害、脳性まひによる数々の身体障害を持っていますが、素晴らしい詩をたくさん発表されています。そのくりすあきらさんに、「ありがとう」という詩があります。その詩をご紹介します。「お施餓鬼のころ」を終わりにすることに致します。

ありがとう

ありがとうといわれたら

しあわせになります

でもありがとうは

なかなかいうてもらえませ

んしんせつにせんというてもらえ

ませ

んどりよくせんというてもらえ

ませ

んありがとうはしんどいことな

です だからぼくは

しんせつにしてもろうたらすぐ

ありがとう

いうことにしました

ぼくのためにどりよくして

くれたんじやけんありがとう

とい

ありがとうはしあわせの

あいさつ

新型コロナウイルスでたいへんな医療

従事者の皆さん「ありがとう

う」、災害救援の皆さん「あり

がとう」、志村けんさん、笑わ

せてくれて「ありがとう」。

別世帯の家族に、
寺報を送りませんか？

別世帯のご家族に寺報を送って、お付き合いのあるお寺のことを知っていてもらうようにしてはいかがでしょうか。送料は、お寺や花園会で負担いたします。

ご希望の方は、送り先のご住所、お名前、続き柄をお寺までご連絡ください。

墓地の空きがあります。

墓地を移転される方や永代供養塔「涅槃精舎」に改葬される方がいらして、空きができました。ご希望の方は、お寺までお申し出ください。

【広さ】

五尺(一五 cm)×三尺(九 cm)

【区画数】

四区画

【永代使用料】

一〇〇万円

【墓地管理費】

年三千元

【花園会費】

年一万元

(どうしても広い区画をご希望の方は、お寺までご相談ください。)

新型コロナウイルスにかかる 今後の行事について

七月・八月の棚経
 すでにお知らせの通り、初盆の方以外は、本年は見合わせさせていただきます。初盆をお迎えの方は、お参りの予定をお電話にてご相談ください。

秋の花園会ゴルフ
 花園会員の親睦を図るという目的もあるイベントですので、プレイ後のパーティ開催が難しいため、中止にさせていただきます。

涅槃精舎毎歳法要
 法要と布薩会は、例年通り開催いたしますが、書院での会食はせずに、お弁当をお持ち帰りいただきます。

涅槃寄席
 例年、密になるほどの参加者ではありませんので、予定通りに開催いたしますが、高座後の懇親会はいたしません。

第九回
 四国あるき遍路
 飛行機による県を越えての移動となるため、延期とさせていただきます。なお、再開についてはワクチンができてからとさせていただきますので、来年の二月も見合わせになると存じます。

右記以外の行事については、開催する場合にはそれぞれご案内を差し上げます。

平成31(令和1)年度花園会会計報告

平成31年4月1日～令和2年3月31日

	科目	金額	備 考
歳 入	前年度繰越金	339,656	
	お寺より活動費	1,315,000	
	行事収入	735,490	土曜会、地藏盆、禅童会・新年会・写経会などの参加費を含む
	雑収入	10,005	彼岸法話会東京教区補助金・預金決算利息
	歳入合計	2,400,151	
歳 出	宗派賦課金	173,500	本山納付花園会費、災害見舞金ほか
	行事費	1,166,385	地藏盆・禅童会・土曜会・写経会ほか
	事務費	439,081	事務謝礼、行事案内状の印刷費・郵送料など
	会議費	170,605	月例役員会ほか
	研修費	200,630	東京教区第7部役員研修、役員研修費
	慶弔費	0	
	寄付金	0	
	雑費	0	
歳出合計	2,150,201		

差引残額の ¥249,950 は次年度繰越金としました。

ネット情報に「用心」

(平成三十一年四月の「園だより」から)

二月にお寺の落成をお祝いする大法要を致しました。希望する子どもたちには、お稚児さんの行列もしていただき、お祝いに花を添えていただきました。その時の記念写真がようやく出来上がってきたので、そろそろお配りしようと思っています。お寺の方の記録写真集も作ろうと思っっているのですが、私は当事者だったので写真なんか取れなくて、ビデオ撮影した動画から写真を起こして写真集にする予定なのに、その動画がなかなか手元に届かなくてやきもきしているところです。

そんな話をしていたら、落成の法要に参加した人が、自分のブログにアップしてあるというので、のぞいてみたら、人の名前は違っているし、固有名詞も間違っているし、とにかくめちゃくちゃです。それでよくわかりました。ブログとかツイッターとか、とにかく誰でも自由に書いて、自由に発信できるわけです。言葉の意味も、書いていることの根拠はどこだとか、どうしてそんなことが言えるのかとか、校正も検証もせずにごんごん発信できて、責任なんてないのです。それが、私たちの目にするネットからいくらでも、まことしやかに見ることができる、そんな危険が私たちの身近にあられているんだ。もちろん、子どもたちもそんな

危険にさらされているのです。まだ正しい判断ができない子どもたちは、ネットで書かれていることをうのみにする危険があるんだと、私たち大人は認識しないといけないと、恐ろしさまで感じてしまいました。

といいつつ、ネットの記事で面白い写真を見つけたのでご紹介します。

九州産業大学でグラフィックデザインを勉強している学生さんの作品です。このツイッターへの反響は大きく、リツイートは五万を超えているそうですから、ご覧になった方もいらっしやるかと思えます。

ネイチャーランドには二フトリがいて、卵を産んでくれます。ネイチャーランドに仕事に行った帰りには、その卵を持って帰り、次の日の朝食になります。新鮮な卵は黄身が盛り上がるのか、黄身をお箸で挟めるとか、逆に新鮮ではない卵は白身がべちゃーっと広がる

とか・・・、卵を割るときに失敗したら黄身が割れて目玉焼きになりません。火加減でも焼け具合が違いますし、半熟がいい人もいれば、しっかり焼いた方がいい人もいます。ところが、この写真を



見ると、黄身の大きさも一緒、その上にわざわざ白身を切り取って同じ形の目玉焼きにしようとしています。

「この写真のタイトルはなんだと思いますか？」

「日本の学校教育」というタイトルで、タイトルの下に「同じ服を着せ、同じ考え方、同じ答えを求める。『普通』になるために切り捨てられていく個性。まず第一に「静かにする」ことを教える日本の教育。子供の将来のためという大人のエゴ。本当に子供たちに必要なのは自らの意思で選択できる力とそれができる環境ではないだろうか。」と書いてあります。

まもなく、平成が終わり、令和の時代になります。ですが、少し古い話で申し訳ありません、第二次世界大戦で敗戦した日本は、復興の名のもとに経済優先の社会を送りました。誰もが経済優先で同じ価値観、同じ方向を向いて歩けば、同じように豊かになり幸せを感じました。しかし、バブルも終わり、リーマンショックも経験し、もうとっくに経済至上は夢の話となりました。だから、同じ価値観で幸せを感じる時代ではありません。そんな時代を迎えているわけですから、幸せの物差しは一人一人違うとおかしいわけです。それを画一化している日本の学校教育、と問題提起しているのです。

誰でもツイッターやブログで情報を発信できる時代ですが、このように考えさせるものもありますし、玉石混交、それを正しい目で見ている力を養わないといろんなものに振り回されてしまいます。

令和二年上半期
お寺と和尚の日録抄

1月	1日	新春ご祈禱
	1日～3日	修正会
	9日	新春写経会
	15日	幼稚園、年中組市原たんけん隊
	17日	幼稚園、年長組市原たんけん隊
	19日	花園会新年会
	20日	幼稚園、年少組市原たんけん隊
	25日	幼稚園バザー「くすのきまつり」
	28日	本堂・書院・庫裡、建物一年検査
	30日	幼稚園、会計監査
2月	1日	幼稚園、市原ボランティア「Q園隊」
	2日	写経会
	7日	幼稚園、涅槃会
	13日	スマートコミュニティ、「写経会」
	15日	土曜会「仏教シアター」『落慶法要』
	25日	コロナ対策臨時役員会
	28日～1日	四国あるき遍路の旅（三巡目第8回）

3月	6日	月例役員会
	7日	佐倉円心寺結婚式
	15日	春彼岸法要（塔婆供養のみ）
	16日	幼稚園、卒園式
4月	3日	月例役員会
	7日	新型コロナウイルス緊急事態宣言
	8日	月例役員会
5月	25日	新型コロナウイルス緊急事態解除
6月	1日	幼稚園、始業式
	3日	幼稚園、入園式
	4日	木曜坐禅会再開
	7日	写経会再開
	11日	茶禅会再開
	15日	幼稚園、年中組梅収穫 於市原別院
	17日	幼稚園、決算監査
	25日	スマートコミュニティ、「写経会」
	26日	幼稚園、年少組市原たんけん隊
	27日	幼稚園、市原ボランティア「Q園隊」
	28日	写経会
	29日	幼稚園、年長組市原たんけん隊
7月	3日	月例役員会
	5日	初盆施餓鬼会（塔婆供養）

第八回

三巡目

四国あるき遍路の旅

令和二年二月二十八日～三月一日

四国あるき遍路の旅を終えて 葛城 塚本 勝身さん

新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される中、三巡目第八回四国遍路が決行されました。

今回が二回目の参加で、同じ轍は踏まないように青葉の森などを歩いて備えましたが、にわかトレーニングのため、登り坂では相変わらず青息吐息となり、あるき遍路の厳しさを再認識しました。

以下、第二回のお粗末紀行です。

初日、松山空港到着後、バスを乗り継ぎ久万高原へ。道の駅で地元食材によるバイキングで満腹感を味わい、タクシーにて農祖峠のへんろ道へ。前回、同じく初参加した竹場さんが先頭グループのハイペースに付いていく。私は、みるみる間を引き離され、にわか仕込みを嘆くだけ。途中で竹場さんが眼鏡を紛失するというハプニング。当人は「よくあることよ。」とケセラセラ。山間を抜け、町中の商店街に飾られたひな人形に癒されて四十四番大寶寺に到着。初

日が無事終わり夕食に舌鼓を打ち、地酒のにごり酒で二次会。これも遍路の楽しみの一つ。同室の竹場さんと明日の天候を気にしつつ就寝。

二日目、起床すると外は小雨。春に三日の晴れなしのおり、これこそ遍路日和と自らを慰め、ヤッケを着込んで出発。路線凍結がないのがせめてもの救いと必死に登る。山中の気温は三度、汗をかいてもすぐに体が冷えてしまう。そしていよいよ今回の正念場ともいえるべき八丁坂に差し掛かる。とにかく半歩でもいいから踏み出せば必ず到達すると決意して急坂に挑む。荒々しい息づかいを吐きながら、ようやくなだらかな地点に辿り着き小休止。気合を入れ直して登ると僅か数十メートル先で急坂が終わり皆さんが待ち受けている。柏坂と同様を覚悟していただけに拍子抜けしたが安堵感でいっぱい。

山中を下り四十五番岩屋寺に

到着。一段と寒さが身に浸みる中で昼食。ゴアテックスのヤッケも役に立たず。平山さん曰く「不良品かもね。」遍路に備えて高額購入したのにとフトコロまで寒くなる。岩屋寺からは溪流を眺めながら、予定時間を大幅に短縮して古岩屋荘に到着。ところが神山さんと石田さんが先ほどの溪流地点をまた歩きたいと岩屋寺まで引き返す。岩屋寺からは下ってきたので逆の上って行く。何という健脚か。脱帽。岩風呂に入り、夕食は猪肉のから揚げやコロケなどをつまみに痛飲。これだから遍路はやめられない。



三日目、朝靄に煙る岩山を眺めながら宿の車で三坂峠まで。この峠はひたすら下るだけ。私の歩みは、上りはエンジンブレーキ、下りはフルスロットルなので順調に四十六番浄瑠璃寺へ到着。続いて四十七番八坂寺を経て西林寺へ。冷たい風が頬を突き刺す中、小村大師堂前に

て後方から走行してきた車が前方に停車、年配の女性が降車してきて「お遍路さんご苦労様です。」と全員に温かいお茶のペットボトルの差し入れ。堂内を拝借して昼食となるが、身も心も温まる。このような地元の人たちの温かいご接待によって、あるき遍路が支えられているものと感謝。

四十八番西林寺に到着し当初予定のコースが終わる。ここで、飲みすぎ？食べ過ぎ？のせいかお腹の具合が悪くなりトイレに駆け込む。トイレから出ると納経料三百円の追加徴収。納経料を値上げした札所もあったのかと思うくらいで何の疑念も抱かず。

当初の予定より二時間も早く参拝が終わったため、この後は松山市内を自由散策かなと勝手に思い込んで最後尾を歩く。ところが、旅程からしてすでに目的の駅に到着しているはずなのに歩き続けるので、宮本さんに「何処まで行くんですか。」と尋ねると「四十九番浄土寺です。もうすぐです。」との返答。トイレに駆け込んでいる時に決まったらしい。先程の納経料追加徴収に得心。知らぬが仏とはこのことか。四十九番浄土寺の参拝を終え、閑散とした松山空港を後にして、無事に今回の遍路が終了。

今回は、中日が雨となり寒さも加わって厳しいあるき遍路となりましたが、前回とは違って心地よい疲労感が残りました。心肺機能の衰えも甚だしく、本格的な遍路ころがしも未経験で不安もありますが、継続して結願を迎えたいと思っています。引き続き皆さんのご助力をお願いして拙稿を閉じます。

旅 の 記 録

期日	曜日	コ ー ス 予 定						食事・宿泊					
1	2月28日	金	7:25発 羽田空港	JAL431	09:00着 松山空港	9:45発 一空港リムジン	10:00着 松山駅前	【歩いた距離】約9.5km					
			10:26発 松山駅前	JR四国バス	11:40着 久万中学校前	一徒歩	11:45着 道の駅「さんさん」で昼食	12:45発	昼食:ランチバイキング				
			《タクシー》	13:00着 農協前バス停あたり	13:10発	一徒歩	H495からH651の農道峠越えのへんろ道です。	約5.1km					
			14:40 旧久万消防署	一徒歩	約1.4km	15:00着 「ガーデンタイム」	荷物を置かせてもらい、大寶寺へ。	一徒歩	約1.5km	15:30着 44番大寶寺	宿泊:ガーデンタイム 久万高原町久万1470-2 TEL0892-21-0005		
2	2月29日	土	7:00~ 朝食	8:00発 宿出発	ファミリ-マ-トで食を調達。	8:10発 久万高原駅	一徒歩	約7.3km	10:30着 八丁坂登り口	【歩いた距離】約13.0km			
			一徒歩	約0.6km	10:55着 八丁坂峠	一徒歩	約2.1km	12:00着 朝食	12:50発	一徒歩	約3.0km	45番岩屋寺	宿泊:国民宿舎「古岩屋荘」 愛媛県上浮穴郡久万高原町直瀬乙163 TEL0892-41-0431
			13:40着 「古岩屋荘」	14:00着 チェックイン	入浴	18:00~ 夕食							
3	3月1日	日	7:30発 「古岩屋荘」	一送迎バス	7:50着 三坂峠	8:00発	一徒歩	約1.8km	途中で昼食	【歩いた距離】約20.8km			
			10:00着	10:30発	一徒歩	約0.9km	10:40着	11:10発	一徒歩	約2.5km	46番浄瑠璃寺		
			10:40着 昼食	12:20発	一徒歩	約1.8km	12:40着	13:15発	一徒歩	約3.2km	47番八坂寺		
			13:50着 札始大師堂	14:15発	一徒歩	約0.6km	14:25着	伊予鉄久米駅	14:30発	伊予鉄	48番西林寺		
			14:46着 伊予鉄松山市駅	14:55発	一空港リムジン	15:15着	17:50発	JAL438					
			19:15着 羽田空港										

【歩いた距離】 43.3km

あ と が き

新型コロナウイルスの感染拡大の状況なら国内移動も制限されるのかもしれないと心配しましたが、無事に第8回を終えることができました。

それでも、心配だったので医療関係者に相談したら、「歩き遍路に行くような元気な人は、抵抗力もあるから感染の心配はないでしょう。」と言われ、安心しての出発でした。

四国はウィルス感染の影響が少ないのかと思ったら、二泊目の「古岩屋荘」は三月の予約がすべてキャンセル

ルだそうで、他人事ながら経営が心配になりました。

心配といえば、二日目の旅程で、大寶寺から岩屋寺までの山越えの時間を多めにとってしまい、宿に早く着きすぎてしまいました。効率優先の社会で生きている人には、時間ももったいないと思われたかもしれませんが、長い道中ではそんなこともあるのが歩き遍路だと思ってください。逆に、暗くなってから宿に到着なんてこともあるかもしれませんので・・・。

では、また次回、元気に歩きましょう。



Title : 46番浄瑠璃寺、47番八坂寺 Date : 2020/03/01



【右】八坂寺の手水鉢のそば、屋根の上にいる招き猫？

三坂峠から麓に降りると、そこからは平坦なアスファルトの舗装道路を歩くことになります。石ころだらけの下り道は、落ち葉が積もって歩きにくいと思うのですが、舗装道路ばかりだと、山道の足にやさしい柔らかさが恋しくなってきます。



温かいお茶のお接待

強風が吹く中を歩いて西林寺手前の「札始大師堂」までやってきました。そろそろお昼にしようかと思っ

こんなところをお参りする車のお遍路さんもいるのかと思ったら、下りてきた女性がお接待ですと言って、温かいお茶をお接待してくれました。聞けば、前の札所で私たちを見かけて、人数分のお茶を買ってわざわざ追いかけてきたのだそうです。



自販機も見当たらないところで、風に吹かれながら冷たいお茶を飲みながらの昼飯を覚悟していたのですが、大師堂は中に入ることができるし、温かいお茶をいただけるので、ほっとするランチタイムになりました。

Title : 三坂峠から

Date : 2020/03/01



「網掛石」のお堂の前で、一休み。

三坂峠から松山平野へ

「古岩屋荘」のワゴン車で三坂峠まで送っていただき、ここからは松山平野まで一気の下りです。かつては、松山から高知に向かう主要道だったそうで、重い荷物を載せた馬がこの坂を上り下りしたそうです。そんな案内板を読むと、道は昔のままですからタイムスリップしたような気持ちになります。坂の下の方から馬子唄でも聞こえてきそうな錯覚に陥ります。

麓に辿り着くと、かつて坂本屋という遍路宿だったところのご主人らしき人が「いま、店を開けるから休んでいって。」と声をかけてくれました。残念ながら、今日は千葉まで帰らなければならぬ、先を急ぐ旅でしたので、休憩もせずに通りました。あとから、せっかくのお接待を無礙にしたことを後悔しました。お遍路さんには、お接待を断ってはいけないという不文律があったことを思い出した次第です。



Title : 44番大寶寺

Date : 2020/02/28



ひなまつりの「久万高原」

久万高原の町に戻り、荷物を宿に預けて大寶寺に向かうと、町はひなまつり一色で、商店街の店々にお雛様が飾られていました。

宿泊から考える四国遍路の世界遺産化

今宵の宿は、「ガーデンタイム」という横文字の宿。歩き遍路に似合わないと思わないでください。本来なら、大寶寺宿坊なのですが、あいにく断られたのです。野宿するわけにもいかず、ようやく探し当てた宿なのです。

かつて、宿坊にしろ遍路宿にしろ、お遍路さんが飛び込みでやってきても泊めるというのが不文律でした。ところが現代では宿坊さえ、「休みですから・・・。」と断られることがあります。世の中、働き方改革で従業員の休暇をきちんと取らせないといけなくなっているのです、無理をいうこともできません。

受け入れ側だけの話ではありません。以前予約を入れた宿では、遍路の団体だというだけで断られたことがありました。遍路というだけで、お大師さんの庇護のもとに何でも許されると勘違いしている輩がいるから、お遍路さんはお断りだということです。

宿坊に泊まると朝のお勤めがあるからいやだというので、宿坊が敬遠されているという話も聞きました。

どうやら、泊める側もお遍路さんも変容しているようです。そんなで世界遺産にしようなんて、おこがましい話です。



Title : 伊予「菩提の道場」へ

Date : 2020/02/28



前回までの慣れ親しんだ感のある高知空港でしたが、今回からは松山空港に向けての空路となりました。

新型コロナウイルスの影響もあまり感じることなく、慣れ親しんだ顔が羽田空港に集まって、いざ出発です。

四国遍路では、四国四県を発心・修行・菩提・涅槃の各道場に割り当てていて、伊予ではお悟りに辿り着く・・・はずです。

伊予の国でお世話になるのは、「いよてつ」の名で親しまれている「伊予鉄」です。空港リムジンも、真っ赤な車体の「いよてつ」でした。空港リムジンだから、当然松山駅だろうと思うなかれ、伊予鉄の松山市駅というものがあるのでご用心、といいながら最初から乗り間違えてしまいました。



車のことなら平山さん？

松山駅からはJR四国バスで、大寶寺門前の久万高原まで行くことになっています。約1時間の路線バスの旅です。運賃も1,360円と、都会では考えられないような金額です。

ようやくバスが来て乗り込もうとすると、運転手さんが平山さんになにやら説明をしています。まさか、平山さんお得意の営業ではないだろうと思いましたが、運転手さんがアドバイスしてくれたのは、久万高原に行くなら片道切符より一日乗り放題の切符の方が安いから、それで行きなさいということでした。さっそく目の前のバスセンターで一日乗り放題きっぷを買って、久万高原にむかったのですが、片道1,360円がなんと一日乗り放題で

1,300円。半額で乗れたような気になりますが、どうせ片道しか乗らない私たちにとっては、60円安くなっただけですから、なんとなく平山さんより運転手さんの方が営業がうまいのではないかと思います。

それにしても、前回であった人もこの運転手さんも、愛媛の人は親切な人が多いことを実感しました。



3巡目 第8回

四国あるき 遍路の旅



倒木に道をふさがれた
「農祖峠」へのへんろ道にて



令和2年2月28日～3月1日
臨濟宗妙心寺派 圓福寺